

## 2023 年度 宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会

## 【第1部】豊岡 志保 氏 へのご質問 (全4件の回答)

Q1. 高次脳機能障害者が受けられる社会制度はどんなものが有るのか知りたい。

(当事者・ご家族より)

A1. 住んでいる地域の高次脳機能障がい者支援センターでお尋ねください。高次脳機能障がい者の障害者手帳は精神福祉手帳です。山形県では手帳が取得できなかった場合に福祉サービスを受けるための診断書があります。

Q2. 高次機能障害者の継続的治療の仕方とは…

(ご家族より)

A2. 継続的に専門医(脳神経内科、リハビリテーション科、脳神経外科など)に受診して、その時々アドバイスを受れたり、年金や障害者手帳の更新の診断書を作成してもらいます。治療として内服薬(向精神薬、抗てんかん薬など)があるときには定期的に処方を受けます。

現在、症状が改善するような決定的な治療法はありませんが、医療機関と継続して関わっていると生活上の困ったことが起きたときに相談することができますし、社会的な支援の事業所、行政につながるすることができます。規則正しい生活を心がけて、定期的な外出する場をつくることで医療を超えて、高次脳機能障がい者の生活レベルの向上に役に立つと思っています。

Q3. 厚生労働省が就労継続支援 B 型の工賃について、上げるように通達を出したと聞きました。全国的に是正されているのでしょうか、また、山形県では、どうでしょうか。何かそれを知ることが出来るデータや文献がありましたら教えてください。

(ご家族より)

A3. データはありませんが、山形市市議員の方で工賃をあげるように活動している方がいます。私としては社会参加を重要視していますので、事業所が安定して経営されて、当事者の選択の幅が広がることを希望します。

Q4. 高次脳機能障害の診断がついていないが既往から疑わしい方や支援者に繋がっていない方を見つけた時にどういった支援先につないでいけるか、どういった活動を紹介できるか、暁才のような通所施設は近くにあるのかを知りたいです。

(当事者より)

A4. 各地域の支援拠点事業所に相談するのが良いと思います。ただ、暁才のようなところを探すだけでなく、自分たちで作っていくことも必要だと思います。数人でも集まってお互いの事情を話したり、一緒に活動(講演を聞きに行ったり、全国大会に参加する)のも大切だと思います。現在は YouTube で当事者同士で語り合うような番組もあります。そちらに投稿するのも一案だと思います。

<https://www.youtube.com/watch?v=a1FpJZTND-A> 風神雷神

【第2部】原田 勝行 氏 へのご質問（全4件の質問）

Q5. 高次脳機能障害のリハビリは、何歳であっても、そして継続しなくても効果は期待出来るのでしょうか。若者程効果があって、年長程効果が現れないイメージがあります。高齢者でも大丈夫なのでしょうか。またリハビリする事を忘れて継続出来ず、毎日ではなく多少間隔があいても、やらないよりはましでしょうか。（当事者より）

A5. 脳の機能回復は病前に使用していなかった部分が頑張りだすことで、出来るようになることもあります。年齢や頻度（回数）よりも、自分の症状にあった訓練が効果を発揮すると思います。自分の「残っている機能」「できなくなった機能」を正しく理解することが大切です。

Q6. ①自分でできるリハビリの方法はありますか。  
②杖の使い方や選び方も教えてほしい。（当事者より）

A6. ①日常のなかで行う行動を維持することが自主トレとして一番有効だと思っています。特別なことを始めるよりも、経験のある動作の継続（手続き記憶）が力になるのではないかと考えています。

②杖に関しては、症状により使い方も選び方も異なり、症状に合わない場合、歩様（歩き方）にも影響するため、専門のスタッフに相談してみてください。

Q7. 高次脳機能障害者が効果的なリハビリを受けられる施設を教えてください。  
（ご家族より）

A7. 下記の順にホームページを閲覧いただくと、宮城県の支援機関情報が掲載されています。

国立リハビリテーション支援センターのホームページ

→高次脳機能障害情報・支援センター

→高次脳機能障害相談窓口

→宮城県→[支援拠点機関・医療機関情報](#)

Q8. 半側空間無視にて、車の運転を止められています。明確な運転中止の判断材料となる、試験や検査等を教えてください。（当事者より）

A8. 宮城県リハビリテーション支援センター作成の「障害のある方のくるまの運転総合ガイドブック3（令和4年1月版）」に宮城県の運転に関する情報が詳しく書かれています ※ネットでも閲覧可能です。